

資料編

国語科学習指導案

日 時 令和2年1月31日(金)
場 所 1年C組教室
生 徒 第1学年C組 35名
指 導 者 越田 凌介

1 単元名

「説明文の読み方をプレゼンしよう」〔C読むこと オ〕

2 単元の目標

目的に応じて必要な情報に着目するなどして内容を解釈するとともに、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを構築することができる。

3 単元について

第1学年の生徒は、説明的文章を読むことに関して、以下のような実態がある。

項 目	割合(%)
①説明的文章の読み方はよくわかっている。	91
②文章中の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。	86
③中心となる語や文を見付けてまとめられる。	86
④説明的文章の根拠を明確にして読むことができる。	91
⑤文章の段落の意味を考えて読むことができる。	83
⑥目的に応じて必要な情報をまとめることができる。	80
⑦文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明らかにして考えることができる。	83
⑧文章を読んで理解したことを基に、自分の考えを確かなものにできる。	74

以上の結果から、小学校段階における精査・解釈の学習が概ね定着していることがわかる。しかしながら、文章を読んで理解したことを基に、自分の考えを構築することに課題がある。

本単元では、「説明的文章を読む意義を考え、まとめる」という活動を中核に据えている。はじめに説明的文章を学ぶ意義について個人で考え、それを基に各々が自己課題を設定する。そして、複数の説明的文章を読み比べ、それぞれの学習内容を個別のワークシート(以下、これらを「ポートフォリオ」と呼ぶ)にまとめる。次に、個々のポートフォリオの内容を基に、最初に設定した自己課題を解決すべく個人での追究活動を行う。そして追究した内容をプレゼンし、交流を行うことで、さらに学習を深めていく。

単元の学習にあたり、個人の追究した結果を「凝縮ポートフォリオにまとめ、プレゼンをする」という言語活動を設定した。そうすることで、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができると考える。

そこで本単元の指導では、次のような工夫をする。

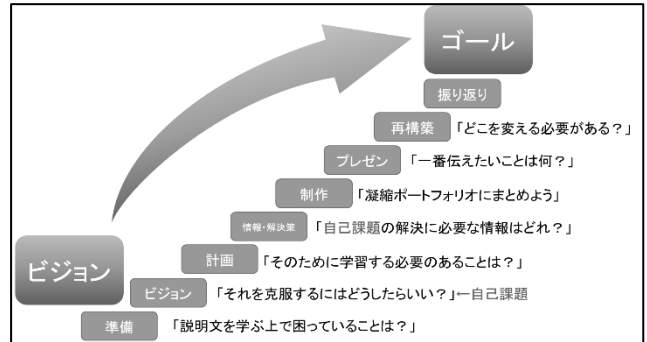
【工夫①】プロジェクト型の学習活動における「問い」

本単元は、プロジェクト学習の特徴やセオリーに基づいて構成している。具体的には、目標設定、情報の獲得、戦略に即した追究、プレゼンテーション、再構築という流れで学ぶことで、成果が生めると考えたためである。

なお、プロジェクト学習の各段階では、的確な「問い」

を投げかけることを心掛けた。個々の生徒が自分のすべきことをその都度考え、学習がスムーズに進むようにするためである。

こうして組んだ単元と「問い」の具体が以下である。



プロジェクト学習を土台とした単元と「問い」のモデル

【工夫②】凝縮ポートフォリオを用いた追究活動の設定

本単元における中心的な言語活動が「凝縮ポートフォリオの作成」である。個々の説明的文章については一斉学習の形態で学習するが、あくまで重要なのは、単元のはじめに設定した自己課題の解決である。常に自己課題を意識して学習を進めるためには、凝縮ポートフォリオにまとめるという意識が必要であるし、まとめたことを他者に伝えることで、学びが一層深まると考えている。

4 単元の評価規準

- 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係を理解して読もうとしている。 【知識・技能】
- 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、自分の意見を構築している。 【思考・判断・表現】
- 設定した自己課題にしたがって粘り強く学習を進めようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の指導計画

時	学習内容	評価規準
1 (本時)	○説明的文章を読む意義について考える ○自己課題を設定する ○単元の課題を知る 『凝縮ポートフォリオにまとめて伝えよう』 【工夫①・②】	態 思
2~4	○「花の形に秘められたふしぎ」「言葉のゆれを考える」を学習する 【工夫①】	知 思 態
5~7	○凝縮ポートフォリオを作成する 【工夫①・②】	知 思 態
8	○全体の共通課題を把握し、グループでプレゼンテーションを行う 【工夫①・②】	思 態
9	○凝縮ポートフォリオを再構築し、共通課題に対するまとめを行う 【工夫①・②】	思 態

6 本時の学習(1/9)

(1) 本時の目標

説明的文章を読む意義を考え、自己課題を設定し、解決策を考えることができる。

(2) 展開

段階	教師の働きかけ	学習活動	・留意点
導入	<p>○「言葉のゆれを考える」を範読する。</p> <p>○共通課題を提示する。</p> <p>【問題】説明文を学ぶ上で困っていることは？</p> <p>○個人で考え、説明文を読むうえで困っていることは何か、ポートフォリオに記入させる。(準備)</p>	<p>○「言葉のゆれを考える」を読む。</p> <p>〔予想される生徒の反応〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な語句がわからない ・段落分けがうまくいかない ・内容をまとめられない 	<p>【工夫①】プロジェクト型の学習活動における「問い」</p>
展開	<p>○本時の課題を提示する。</p> <p>【課題】説明文の読み方の計画を立てよう。</p> <p>○困っている点を克服するためにはどうすればよいかを問う。(自己課題, ビジョン)</p> <p>○考えた課題に対して、どのような解決策があるか考えさせ、記入する。(計画)</p> <p>○グループに分かれ、解決策と、解決のための計画を説明させる。</p> <p>○説明を聞く側に、質問と助言をさせる。(個人, グループ)</p> <p>○質問されたことを、ポートフォリオに記入させる。</p> <p>○質問された内容を数名に発表させ、答えを出すための方向性について全体で考え、共有する。</p> <p>○質問されたことに対する答えを、ポートフォリオに書き込ませる。(個人, グループ)</p>	<p>○本時の課題を確認する。</p> <p>○これまでの読書経験を踏まえて記入する。</p> <p>〔予想される生徒の反応〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要語句に印をつける ・要約できるようにする <p>○これまでの学習を踏まえて記入する。</p> <p>〔予想される生徒の反応〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な語に線を引く ・段落ごとに見出しをつける <p>○質問されたことをメモしておく。</p> <p>〔予想される生徒の反応(質問)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ接続詞だけなの？ ・キーワードの探し方は？ ・○○を探した方がよいのでは？ <p>○質問に対する答えを書き込むための見通しを持つ。</p> <p>○質問されたことについて、必要に応じて質問者に再確認しながら、追加の書き込みをする。</p>	<p>・最終的に凝縮ポートフォリオを作成し、説明文のわかりやすい読み方をプレゼンするということを意識させる。</p> <p>・どうすれば、困っている部分を解消できるか、個人の追究課題を考えさせる。</p> <p>・質問については、事前にフォーマットをいくつか紹介し、できるだけ多くの質問がなされるようにする。</p> <p>・解決策を考える際に、質問をしてきた相手に対して、書き手が相談できるような形をとるようにし、対話しながら考えられるようにする。</p> <p>【工夫②】凝縮ポートフォリオを用いた追究活動の設定</p>
整理	<p>○数名を抽出し、された質問と、それをうけて解決のための計画をどう再構築したかを発表させる。</p> <p>【単元の課題】凝縮ポートフォリオにまとめて伝えよう。</p> <p>○次時は、各自で設定した自己課題に取り組むことを伝える。</p>	<p>○質問の内容にどういった答えを出したかを発表する。</p> <p>○単元の課題を確認し、単元全体の見通しを持つ。</p>	<p>【評価】</p> <p>自分なりの解決策を見つけることで、学習の見通しを持つことができる。(思, ワークシート)</p>

国語科学習指導案

日 時 令和2年1月20日(月)
場 所 3年B組教室
生 徒 第3学年B組 35名
指 導 者 嶋田 善行

1 単元名

「文化をひらく」〔C 読むことエ〕

2 単元の目標

歴史的背景などに注意して古典に親しむとともに、古典の文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を構築することができる。

3 単元について

第3学年の生徒は、古典を読むことに関して、以下のような実態がある。

項 目	割合(%)
古典にも様々なジャンルがあることを理解している。	84.1
現代語訳や注釈等を手掛かりに、古典作品の内容を理解できる。	78.3
時代背景をもとに古典作品を読み深めることができる。	48.0
自分の意見を踏まえて古典作品を読むことができる。	64.6

以上の結果から、生徒は1・2年生における古典の学習が概ね定着していることがわかる。しかしながら、時代背景を手掛かりに古典作品の読みを深めたり、古典作品を読むことで自分の意見を構築することに課題がある。

本単元では、「古典を学ぶ意義を考え、まとめる」という活動を中核に据えている。はじめに古典を学ぶ意義について個人で考え、それを基に各々が自己課題を設定する。そして、一斉学習の形で「おくのほそ道」「和歌」「漢詩」を学び、それぞれの学習内容を個別のワークシート(以下、これらを「ポートフォリオ」と呼ぶ)にまとめる。次に、個々のポートフォリオの内容を基に、最初に設定した自己課題を解決すべく個人での追究活動を行う。そして追究した内容をプレゼンし、交流を行うことで、さらに学習を深めていく。

単元の学習にあたり、個人の追究した結果を「凝縮ポートフォリオにまとめ、プレゼンをする」という言語活動を設定した。そうすることで、古典作品を読む際に、自分の思いを構築できると考える。

そこで本単元の指導では、次のような工夫をする。

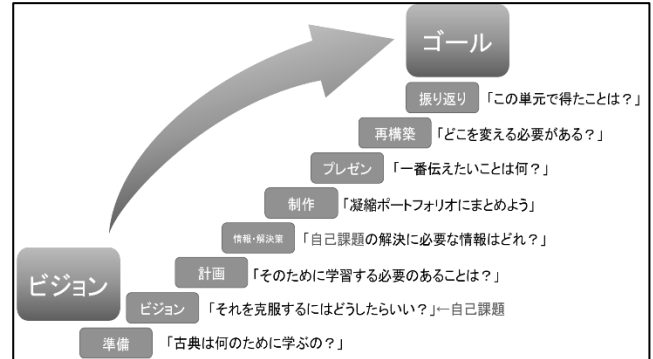
【工夫①】プロジェクト型の学習活動における「問い」

本単元は、プロジェクト学習の特徴やセオリーに基づいて構成している。具体的には、目標設定、情報の獲得、戦略に即した追究、プレゼンテーション、再構築という流れで学ぶことで、成果が生めると考えたためである。

なお、プロジェクト学習の各段階では、的確な「問い」を投げかけることを心掛けた。個々の生徒が自分のすべきことをその都度考え、学習がスムーズに進むようにする

ためである。

こうして組んだ単元と「問い」の具体が以下である。



プロジェクト学習を土台とした単元と「問い」のモデル

【工夫②】凝縮ポートフォリオを用いた追究活動の設定

本単元における中心的な言語活動が「凝縮ポートフォリオの作成」である。個々の古典作品については一斉学習の形態で学習するが、あくまで重要なのは、単元のはじめに設定した自己課題の解決である。常に自己課題を意識して学習を進めるためには、凝縮ポートフォリオにまとめるという意識が必要であるし、まとめたことを他者に伝えることで、学びが一層深まると考えている。

4 単元の評価規準

○歴史的背景などに注意して古典に親しんでいる。

【知識・技能】

○古典の文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を構築している。

【思考・判断・表現】

○設定した自己課題にしたがって粘り強く学習を進めようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の指導計画

時	学習内容	評価規準
1	○古典を学ぶ意義について考える ○自己課題を設定する ○単元の学習課題を知る 『凝縮ポートフォリオにまとめて伝えよう』 【工夫①・②】	態 思
2~6	○「おくのほそ道」「和歌」「漢詩」を学習する 【工夫①】	知 思 態
7~9	○凝縮ポートフォリオを作成する 【工夫①・②】	知 思 態
10 (本時)	○全体の共通課題を把握し、グループでプレゼンテーションを行う 【工夫①・②】	思 態
11	○凝縮ポートフォリオを再構築し、共通課題に対するまとめを行う 【工夫①・②】	思 態

6 本時の学習(10/11)

(1) 本時の目標

プレゼンテーションを通して自分が追究したことを他者に伝えることで考えを広げたり深めたりし、古典について自分の考えを再構築することができる。

(2) 展開

段階	教師の働きかけ	学習活動	・留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の追究課題を振り返らせる。 ○単元のはじめに考えたことについて振り返らせる。 ○共通課題を提示する。 <p>【共通課題】古典を学ぶ意味について考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○凝縮ポートフォリオを準備する。 ○単元のはじめに、「なぜ古典を学ばなくてはならないか」を考えたことを思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめに遡って振り返るようにする。 <p>【工夫①】プロジェクト型の学習活動における「問い」</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の課題を提示する。 <p>【課題】凝縮ポートフォリオの内容をプレゼンテーションしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループに分かれ、自分のポートフォリオのプレゼンをさせる。 ○プレゼンを聞く側に、質問をさせる。(グループ) ○質問されたことを、ポートフォリオの用紙に記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の課題を確認する。 ○約3分間のプレゼンを行い、一番伝えたいことを中心に伝える。 <p>〔予想される生徒の反応(質問)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ徒然草を使ったの？ ・〇〇を読んでみて、わかったことは何ですか？ ・なぜそういう構成にしたの？ <ul style="list-style-type: none"> ○質問されたことをメモしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンする側は、「一番伝えたいこと」を中心にプレゼンを行う。 ・質問については、事前にフォーマットをいくつか紹介し、できるだけ多くの質問がなされるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○質問されたことを数名に発表させ、答えを出すための方向性について全体で考え、共有する。 ○質問されたことに対する答えを、ポートフォリオの裏面に書き込ませる。(個人, グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○質問に対する答えを書き込むための見通しを持つ。 ○質問されたことについて、必要に応じて質問者に再確認しながら、調べることは調べ直し、追加の書き込みをする。 <p>〔予想される生徒の反応〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この構成にした理由は… ・〇〇を読んでわかったことは… ・ここの文法をもっと分かりやすく説明すると… 	
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○数名を抽出し、された質問と、それをうけてポートフォリオをどう再構築したかを発表させる。(全体) ○次時は、今回の学習をうけて、共通課題へのまとめをすることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○質問の内容にどう回答を出したかを発表・説明する。 ○共通課題を再確認し、次時への見通しを持つ。 	<p>【評価】</p> <p>自分の追究内容を他者に伝えたり質問を受けたりすることで、考えを広げたり深めたりし、古典について自分の考えを再構築することができる。</p> <p>(思, ワークシート)</p>

社会科学学習指導案

日 時 令和2年2月13日(木)
場 所 2年C組教室
生 徒 第2学年C組34名
指導者 佐藤 太一

1 単元名

日本の様々な地域 日本の諸地域 関東地方

2 単元の目標

交通・通信に関する地理的事象を中核として、関東地方が世界や日本の他地域との結び付きの中で影響を受けながら変容していることを、人々や物資の移動の特色や変化などと関連付けて考えることができる。

3 単元について

第2学年の生徒に「日本にとって関東地方ってどんなところ」と質問したところ、「日本の中心地」「日本にとって重要な場所」「大都会」「人口が集中している」「自然がない」「遊びに行くところ」などと答えた。これらは、日本の首都である東京のイメージや実際に行ったりテレビ番組の視聴などの実体験から感じたりしたことであり、関東地方の中心である東京の影響力の強さを示している。

本単元では、関東地方が日本の中心といわれる理由を明らかにし、それゆえに抱える過密の問題に対する解決策を時間距離の視点を大切にしながら考察させることで、他の地方との関わりや違いに気付かせ、関東地方の特色を理解させるものである。そこで、本単元の指導では、次の2点の工夫を行う。

【工夫①】学ぶ意欲を持続させる単元構成の工夫

本単元は、大項目「日本の様々な地域」に含まれる中項目「日本の諸地域」の中にある7つに設定した小項目の一つである。これまでの研究授業では、それぞれの小項目を一つの単元とし、単元を貫く課題を設定してきた。その結果、地方によって割く時間に大きな差があった。また、生徒は、その地域に「行ったことがあるから」「これから行くから」「多分、行くことはないから」「その地域のことを知って意味あるのか」などと地方により興味・関心の度合いの違いがあった。そこで、北海道に生活している生徒にとって、北海道以外の地域の特色や課題を理解することが北海道地方の地域的特色や課題をより明確に理解することにつながるように、中項目の課題を設定し、常に意識させることで、地域の特色や課題が様々な事象と結び付き、影響を及ぼし合っていることを理解させたい。

【工夫②】協働を促すための資料の工夫

深い思考に導くためには、多くの確かな情報が必要である。そこから読み取ったことを活用して、新たな価値を創造するためには、豊かな発想力が求められる。過疎・過密問題を学んだ生徒にとって、関東地方の過密を解消させるためには、関東地方と他の地方の繋がりから考

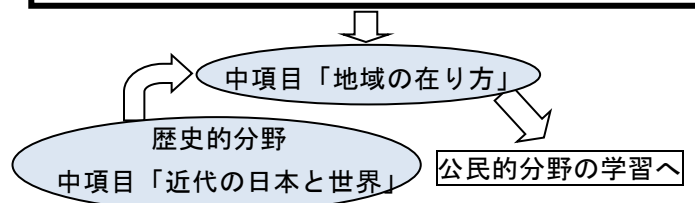
えることが大切である。現状の関東地方が、2027年開業予定の中央リニア新幹線によってどのような姿になるかを想像し、各人が考えた解決策を交流することで確かな未来像を描きながら、問題解決に向かわせたい。

4 単元の評価規準

- 関東地方の地域的特色に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取り、地域的特色を理解している。 【知識・技能】
- 関東地方の地域的特色を、交通や通信を中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し、表現している。 【思考・判断・表現】
- 関東地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとするとともに、北海道の地域的特色をより明らかにしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の指導計画

日本の諸地域		
「持続可能な北海道のためには？」		
北海道地方 九州地方		
近畿地方 中国・四国地方 中部地方 東北地方		
時	関東地方の学習内容	評価規準
1	○関東地方の位置と自然環境を大観し、構成する都県の位置と名称を理解する。 【工夫①】 「関東地方は日本の中心なのか？」	知
2 3	○地図帳で人口30万人以上の都市の位置、JR新幹線、JR本線、JR線、私鉄線の路線を確認し、東京から蜘蛛の巣状に広がっている理由を考える。 【工夫①】	思 知
4 (本時)	○他地域が東京とのつながりを意識していることに気付かせ、中央リニア新幹線開通後の地域区分の変化を考える。 【工夫①】【工夫②】	思
5	○中央リニア新幹線開通後の工業地域や外国との窓口、日本の地域区分の変化から、新たに生まれる課題や他地域への影響を考え、北海道地方の地域的特色を捉える。 【工夫①】【工夫②】	態 思



社会科学学習指導案

日時 令和元年12月9日(月)

場所 3年A組教室

生徒 第3学年A組36名

指導者 庭瀬 奈穂美

1 単元名

労働と社会保障

2 単元の目標

社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について考えさせ、表現させるとともに、国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている役割について考える。

3 単元について

第3学年の生徒の73%が、地理や歴史と比較して、公民は難しいという意識をもっている。その一方で、公民を学習することにより、テレビやインターネットのニュースに興味をもてるようになったと答えている。しかし、マスメディアで取り上げられた社会的事象の影響を強く受けたり、話題としてあげられるものの、その詳細はわからないという生徒も見られる。つまり、社会的事象に興味はあるものの、それを分析的に捉えたり、自分ごととして考えるという部分については、不十分といえる。また、授業や日常の会話の中では、マスメディアによる見方を鵜呑みにして捉えた発言も見られる。

本単元では、労働や社会福祉に対して現在の制度を理解し、現在の日本が抱えている課題に気づき、その解決策について複数の立場から考察することを通して、国民生活の向上のためにそれぞれが果たすべき役割について考える力を身に付けさせたい。そのために、本単元では、次のような工夫を行う。

【工夫①】考察の根拠となる資料提示の工夫

これまでに学習した内容を基に学習課題に対して自分なりに予想し、それが適切かどうかを資料を根拠として確認したり、資料を通して自分の考えを変えたりすることにつながる適切な資料を提示する。また、複数の資料を関連付けて思考することを促すために、資料の提示の順序を工夫したり、資料を提示した時に、どの部分に着目するのかを意識させるなどの工夫を行う。さらに、自分の思考や判断を表現する時に、どの資料を根拠とすれば、より説得力が増すのかという視点から資料を選択する場面を設定した。

【工夫②】立場や視点を明確にして複数の視点から社会的事象を考察する学習形態の工夫

学習課題に対して複数の立場から思考する場を設定する。そのために、ジグソー法を用い、自分の思考が、どの立場に立ったものであるのかを意識させるとともに、他者の意見を聞く時にも、どの立場から述べられている意見なのかを踏まえて理解するようにさせる。

課題の追究に当たっては、はじめに1つの立場から学習課題と向き合い、追究した後に、他の立場の意見を聞き、どの立場からも納得できることを意識して異なる立場の者と協働して課題を追究させることで、より多面的・多角的に思考することができるよう工夫した。

4 単元の評価規準

○労働条件や社会保障に関するさまざまな資料から、情報を適切に選択して読み取り、現在の日本が抱える課題について理解している。

【知識・技能】

○職業の意義について多面的・多角的に考察している。また、現代社会の特色と関連付けながら財政と社会保障について考察し、表現している。

【思考・判断・表現】

○社会生活における職業の意義と役割、および雇用と労働条件の改善の問題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の指導計画

時数	学習内容	評価規準
2	○労働者の権利や労働に関わる法や制度について確認する。 ○現在の日本が抱える労働問題を理解する。 【工夫①】	知
2	○社会保障について、具体的な法や制度、社会保障の根拠となる憲法に基づく権利について資料を基に理解する。 ○社会保障の必要性和歳出に占める社会保障費の割合から、社会保障と財政の関係について考察する。 【工夫①】	思 態 知

2 本時 2/2	○複数の立場から、安心して働くことができる社会にするためにはどのようなすべきかを考察させる。 【工夫②】	態 思
----------------	---	--------

持続可能な社会
国際社会に生きる私たち

6 本時の学習(6/6)

(1) 本時の目標

経済の三主体のそれぞれの立場から、誰もが安心して働くことができる社会にするために必要なことについて考えることができる。

(2) 展開

段階	教師の働きかけ	学習活動	・留意点
導入	<p>○問いを提示する。</p> <p>【問い】非正規雇用は継続すべきだろうか。</p> <p>○課題を提示する。</p> <p>【課題】誰もが安心して働くことができる社会について考えよう。</p>	<p>○既習事項や日常で見聞きしたことをもとに考える。</p>	<p>・前時に、非正規雇用は安心して働くことができないと生徒が判断していたことを振り返り、課題を提示する。</p>
展開	<p>○安心して働くことの妨げになっているもの1つと生徒が認識している非正規雇用の現状を確認する。</p> <p>○非正規雇用を継続すべきか ①労働者②企業③政府のそれぞれの立場から資料を基に主張させる。</p> <p>【発問】どの立場の人も安心して働ける社会にするには、雇用の仕組みをどのように改善したらよいだろうか。</p>	<p>○前時までの学習や資料を基に、非正規雇用の問題点を確認する。</p> <p>○グループに分かれ、それぞれの立場から、資料を基に理由を明確に非正規雇用の継続の可否について主張する。</p>	<p>【工夫②】立場や視点を明確にして複数の視点から社会的事象を考察する単元構成の工夫</p>
開	<p>[予想される反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働者の収入を安定させる必要がある。 ・企業が倒産してしまったら、失業者が増えて問題が起こるので、ある程度、企業も利益をださなければならない。 ・政府は、法律を変えて、働いている人が生活に必要な分の賃金が支払われるようにチェックすべきではないか。 	<p>○自分にはない考えを記録しながら、交流する。</p> <p>○資料を基に、制度やその意図を理解し、自分たちの思考と比較する。</p>	<p>・前時までの学習や他の単元の学習をもとに考えさせる。</p> <p>・生徒からの考えを効率と公正の視点から確認する。</p>
まとめ	<p>○学習を振り返り、誰もが安心して働くことができる社会の実現のために必要なことをとめさせる。</p> <p>・非正規雇用でも正規雇用でも、仕事の量や時間に応じて同じような基準で賃金が支払われるようにすべきである。労働者はそれぞれの状況によって正規雇用か正規雇用かを自由に選べるとよい。しかし、労働者のことばかり考えて企業が倒産してしまうと、雇用そのものができなくなってしまうので、そうならないように政府が補助金などを出すべきである。</p>	<p>○誰もが安心して働くことができる社会を実現するためにできることをまとめる。</p>	<p>【評価】 資料や交流を基に、誰もが安心して働くことができる社会の実現に必要なことまとめている。 (思、ノート)</p>

数学科学習指導案

日 時 令和2年2月26日(水)

場 所 附属旭川中学校 3年B組教室

生 徒 第3学年B組 35名

指導者 菅沼 純治

1 単元名 「三平方の定理」

2 単元の目標

観察、操作や実験などの活動を通して、三平方の定理を見いだして理解し、それをを用いて考察することができるようにする。

3 単元について

第3学年の生徒は、図形領域の学習において以下のような実態がある。

項 目	4 思う ↔ 思わない 1			
	4	3	2	1
学習に主体的に取り組むことができた	50%	45%	3%	2%
図形の学習で他の考え方と比べ、発見の多い学習になった。	66%	29%	5%	0%
図形の授業を通してものの見方や考え方がより深まった	77%	16%	6%	0%
図形の学習で、既習の学習内容を活かすことが大切だと思った。	85%	15%	0%	0%

これまで数学的な見方・考え方が働く指導の工夫に焦点を当て、主体的、対話的で深い学びにつながる授業づくりを目指し、深い学びの実現に向けて2点を重視して実践を積み上げてきた。

- ・ 数学的表現として、事象に潜む関係を解明したり活用したりしながら表現する。
- ・ 批判的思考として、得られた数学的な結果が問題の答えとして受け入れられるかを検証する。

より「質の高い学び」を促すため、数学的な見方・考え方を働かせ、最終的には、生徒の思考、態度の変容が実感できる学びを進めて行く。

本単元の学習に向けては、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養っていくことをねらいとしている。こうした力を培っていく上で、根拠を明らかにして自分の考えを説明し、伝え合い、互いに吟味し合う活動を通して、数学的な推論の過程を他者に分かりやすく表現するなど段階的に指導を重ねてきておられる。また、日常の事象における問題発見・解決では、課題に対する解決過程を基にしながら、視点を変えると解決過程にどんな違いがあるか、また、共通点があるかなどを考察させたり、より発展的な問題に生徒自らアップデートしながら数学的に表現した問題を見いだす力、解決過程を振り返り、得られた結果を意味付けたり、活用したりする力を身につける指導を進めてきた。

本時の学習では、中学校数学で学び培ってきた数学的な見方・考え方を生かし、生徒同士の共同的な対話から導かれた解決過程を共有・洗練・深化させながら、課題を解決するとともに、課題の先にある次の問題を模索する学習を進めて行く。

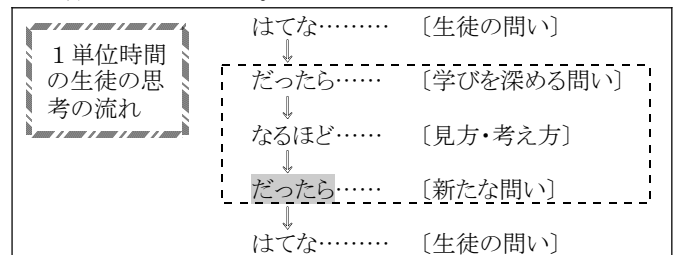
そこで、授業構築に関わっては、本単元においては次のような指導の工夫を行う。

【工夫①】課題の自立的、協働的な解決過程の設定

生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、課題の解決に向けてあれこれと試行錯誤しながら思考し、判断し、表現しながら解決に向けた学習を進める協働的な解決場面を設定する。単に、課題の解決方法を考えだけに終始せず、「効率的か」「他者が納得・説得するか」といった視点を含め、批判的に検証しながらよりよい解決方法を見出す数学的活動を取り入れる。

【工夫②】問いの連続を促す新たな問いの設定

生徒自身が問いを持ち、その問いを学級全体で協働的に解決し、さらに新たな問いに向かう流れを意識した授業を進めていく。



課題解決から新たな数学的な見方・考え方を獲得した上で、「だったら」と条件変更などを行い、新たな問いのきっかけを促し、主体的に学習を進める動機付けを行い、今後の学びにつなげていくように促す。

4 単元の評価規準

- 三平方の定理やその逆の意味を理解するなど、知識を身に付けている。また、三平方の定理を用いて直角三角形の辺の長さなどを求めるなど、技能を身に付けている。 【知識・技能】
- 三平方の定理についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象に潜む関係や法則を見いだしたり、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。 【思考・判断・表現】
- 様々な事象を三平方の定理で捉えたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに興味をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の指導計画

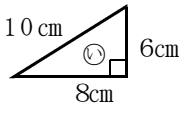
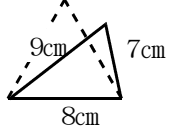
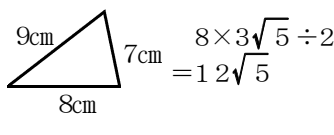
時数	学習内容	評価規準
4	1. 三平方の定理 ○三平方の定理 ○三平方の定理の逆【工夫①】	知 思 態
7 本時 7/7	2. 三平方の定理の活用 ○平面図形への活用【工夫①】【工夫②】 ○空間図形への活用【工夫①】【工夫②】	思 態
3	まとめ、練習、単元テスト	知 思

6 本時の学習(11/14)

(1) 本時の目標

周りの長さが同じ三角形の中で、面積が最も大きい形を考えることができる。

(2) 展開

段階	教師の働きかけ	学習活動	・留意点
導入	<p>○問題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【問題】 長さが24cmの鉄板で一番面積が大きい三角形のケーキの型をつくりたい。 正三角形の面積を越える三角形はあるか。</p> </div> <p>○直観で予想させ、他の三角形をイメージさせる。</p> 	<p>学習活動</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[予想される生徒の考え]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・㊸正三角形 8 cm, 8 cm, 8 cm ・㊹直角三角形 6 cm, 8 cm, 10 cm ・㊺鋭角三角形 7 cm, 8 cm, 9 cm ・㊻二等辺三角形 4 cm, 10 cm, 10 cm </div>	<p>・留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題提示の方法 ①具体物を提示する。 ②問題内容を説明する ③予想させる。 ④問題を板書する。
展開	<p>○予想した図の中で最も大きい面積があるか比べ、面積を求めさせる。</p> <p>○課題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【課題】 ㊺の面積と㊸の面積を比べてみよう。</p> </div> <p>○個人思考で解決の見通しを持たせる。</p> <p>○小グループで解決方法を交流し合い実際に結論を導かせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[予想される生徒の考え]</p> <p>(その1) 高さを比べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図をかいて比べた ・長さを求めた ㊸ $4\sqrt{3} \approx 6.9$ ㊺ $3\sqrt{5} \approx 6.7$  </div>	<p>○㊸が最も大きな三角形だと考える。 ㊸→$16\sqrt{3}$, ㊹→24, ㊻→$4\sqrt{26}$ ㊺→面積が簡単に求められない</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[予想される生徒の考え]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・㊺の面積を求める。 ・高さを比べる。 </div> <p>○数値的にならぬ正三角形が最大になっていそうだが</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(その2) 面積を求める</p>  $9 \times 7 \div 2 = 12\sqrt{5}$ </div>	<p>・二等辺三角形や直角三角形は三平方の定理で高さが簡単に求められるが、㊺は簡単にいかない。</p> <p>・考え方をテレビで投影し補助する。</p>
	<p>○考え方を全体で共有し課題を解決する。</p> <p>○課題の考えをもとに、㊸の面積より大きくなる三角形があるかを問う。</p> <p>○正三角形が最大であることを証明することは無理だが、推測できることを全体共有し、教科書内容を確認する。</p>	<p>○㊺の面積より㊸の面積の方が大きいことがわかる。</p> <p>○㊸の面積より大きくなる三角形はないと考える。</p> <p>○3辺の長と面積の関係を理解する。</p>	<p>【工夫①】 協働学習を でより分かりやすい 説明の洗練・深化</p> <p>・ヘロンの公式を紹介する。</p>
まとめ	<p>○本時の学習から学んだことをまとめさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[予想される生徒の考え]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1本のひもで面積が最大になる三角形は正三角形である。 ・3辺の長さがわかればどんな三角形の面積も求められる。 </div> <p>○問題に戻り、より発展的に考えるとき、どこを変えるかを考えさせ、答えも考えさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[予想される生徒の考え]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四角形の型をつくるなら正方形が一番大きいのか？ ・最も面積が大きい型をつくる時、どんな形になるのか？ </div> <p>○問題に戻り、より発展的に考えるとき、</p> <p>○いくつかを提示し、全体に還元する。</p>	<p>○三角形の注目して振り返る。</p>	<p>【評価】 周りの長さが同じ三角形の中で、正三角形が面積が最も大きい形だと推測できた。 (観察ノート、考え方) 【工夫②】 新たな問の設定と見通しをもたせる活動</p> <p>・実際に変更した問題をグループ毎に考えさせる。</p>

理科学習指導案

日時 令和2年1月31日(金)
場所 第1理科室
生徒 第1学年B組35名
指導者 林 亮輔

1 単元名

「身近な物理現象」[光の反射・屈折]

2 単元の目標

光の性質に関して、実験を行うことを通して理解を深めるとともに、見通しを持って実験を行ったり、日常生活や社会と関連付けたりすることで、科学的に探究する力を養う。

3 単元について

第1学年の生徒は、学習への取り組みや、理科の学習について以下のような実態がある。

項目	割合(%)
理科を学習することは楽しい。	98% (48%)
仮説を立てて実験することや、結果を考察(分析や解釈)することができる。	63% (11%)
理科の学習での考え方は、他教科の学習をするときや将来仕事をするときに役立つ。	91% (51%)
理科は、日常生活と結びつきがある。	95% (59%)

※()内は「特にそう思う」と回答した生徒の割合。

以上から、理科を学ぶことに対して単純な楽しさを感じている生徒は非常に多く、他教科での学び方や日常生活とのつながりも多く感じられている。ただ、科学的に探究することに対しては改善の余地があることがわかった。これらのことから、日常生活とのつながりを感じさせながら、興味関心を高め、仮説→実験→分析・検証(→再実験)といった科学的に探究する力を育てるように指導をする必要性がある。

本単元は、光の反射や屈折、凸レンズの働きにかかわる観察、実験を通して、規則性を見いだし、日常生活や社会と関連付けて理解させるとともに、観察、実験の技能を身に付けさせることが主なねらいである。そこで、単元の終末には、習得した知識を活用する課題として物質の密度の違いから起こる屈折の現象を課題として提示する。現象が起こる理由を解明するために、試行錯誤しながら観察、実験を行い、その活動を通して知識の発見から知識を構築するプロセスを学習の中核とする。

生徒が主体的に試行錯誤しながら実験するために、指導過程では主に①「課題の把握」②「見通しと振り返り」を工夫する。生徒自身が探究の過程において①・②を可視化することで、科学的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力を養いたいと考えている。

そこで、本単元の指導では次のような工夫をする。

【工夫①】知的好奇心を喚起する課題の提示と試行錯誤する場面の設定

(1) 主体的な学びを促す課題の提示

生徒が身に付けた知識を活用することのできる物理現象を教材とし、「どうすれば解決できるだろうか」「他の意見を聞いてみたい」等の知的好奇心を喚起する問題や課題を提示する。本単元においては、知識を活用する課題として蜃気楼(逃げ水)の現象を教材として、「どうしてこのように見えるのか」という課題を解決するために、既習事項や仮説の立証と、それに即した実験計画の立案を主体的に行う活動を設定する。

(2) 試行錯誤する場面の設定

観察、実験活動においては、生徒自身が試行錯誤することを重視する。課題解決に向けて何度も観察、実験活動を繰り返すことを通して、探究の過程を繰り返すよう促す。指導過程における学習形態は、基本的には個人思考から集団思考へと向かわせていくが、そのタイミングは、教師主導にならないように意識し、指導する。

【工夫②】思考の記録と共有を図るワークシート

探究の過程の一つである「見通し」と「振り返り」を可視化するための手立てとして、1単位時間を通して、自己の思考の内容を記録するとともに、他者との考えを共有するワークシート(以下 WS)を用いる。本単元では、ラベルシートを使用して「どうしてこの現象が起こるのか」自分の考えを記入し、その後他者の考えをグループで共有できるように工夫する。

4 単元の評価基準

- 光の性質に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】
- 光の性質に関する事物・現象から問題を見いだし、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。【思考・判断・表現】
- 光の性質に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の指導計画

時	学習内容	評価規準
4	○光の性質 ・光の反射や屈折についての実験を行い、それぞれの規則性について理解する。 【工夫①】	知 思 態
1 (本時)	○蜃気楼について(知識の活用) ・物体の見え方について科学的に考察し、光の屈折が起こる原因を考察する。 【工夫①・②】	思 態

保健体育科学学習指導案

日時 令和元年12月9日(月)
場所 附属旭川中学校体育館
生徒 第1学年A組 34名
指導者 杉浦 広憲

1 単元名

「E 球技・バスケットボール(ゴール型)」

2 単元の目標

シュートやドリブル、パスなどの基本的な技能を生かして、簡単なゲームを楽しむことができる。

3 単元について

第1学年の生徒は、バスケットボールに関して次のような実態がある。

バスケットボールをすることは楽しい	89%
バスケットボールのゲームを見ることは楽しい	67%
基本的なボール操作ができると思う	64%
ゴール型の球技の特性を知っている	55%

※表の数値は、4件法で肯定的な回答をした割合。

アンケートの結果からは、ボール操作に自信がない生徒が多いことや、ゴール型の特性の理解度が低いことがわかる。

生徒にとってバスケットボールはスポーツの中でも比較的身近なものの一つであり、休み時間には体育館でバスケットボールを楽しむ生徒の姿が見られる。近年は世界的に活躍する日本人選手が現れてきており、「する」だけでなく「みる」ことを楽しむ生徒もいる。スピード感溢れる動きは、プレイする人にとってもプレイを見る人にとってもエキサイティングである。しかし、運動能力の高い一部の生徒以外は、ボールを操作したり空間を意図的に利用したりして、スピーディな動きを楽しむことは難しいと考える。

そこで、この単元の学習では、バスケットボールの特性や生徒から見たバスケットボールの楽しさを大切に、技術の習得の必要感を見いだし、知識と知識がつながったり、知識の獲得が技能の向上につながったりする実感を味わわせながら、個々の生徒が「バスケットボールがより楽しいスポーツ」と感じられるような単元計画を作成する。そして、学んだことを活用する適切な課題の設定と解決の手立て、新学習指導要領の改善のポイントにもなっている「共生」の視点を踏まえ、仲間との協働が不可欠であると考え、以上のことから、次のような工夫をする。

【工夫①】自己調整力を高める課題の設定

単元の前半では、バスケットボールの基本的な技術を学習する。中学校の段階では、技能に大きく差があるため、自己の取組を適宜振り返らせながら、自分なりに理解を深めたり技能を高めたりさせていくことが望ましいと考える。また、単元の後半では、単元の目標の達成を意

識した『パフォーマンス課題』を設定する。この課題の設定により、個々の生徒が自分の力と提示された状況を鑑み、「今の自分が課題を解決するにはどうすればよいのだろう」という思考と実践を促していきたい。この活動が、自己調整力を高めることにつながっていくと考えている。

【工夫②】課題の解決を促す協働場面の設定

パフォーマンス課題の解決にあたり、グルーピングを行う。その際、性別や体格、経験等を意図的にバラバラにする。こういった状況を作ることにより、同じような考えを持つ生徒や技能の近い生徒をグルーピングするよりも課題の解決にあたって個々の生徒が思考する内容に広がりが見られることが期待できる。また、協働の場面は話し合うだけにとどまらず、観察(分析)も行うものとする。

4 単元の評価規準

○バスケットボールの特性や成り立ち、基本的な技術の名称や行い方を理解している。また、基本的なボール操作やボールを持たないときの的確な動きができる。

【知識・技能】

○基本的なボール操作、及びボールを持たないときの動きの改善のポイントを発見するとともに、運動の取り組み方を工夫している。

【思考・判断・表現】

○授業に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助したり、安全に気を配ったりしようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の指導計画

【小学校高学年、球技「ゴール型」の内容】

集団対集団の攻防によって競争する楽しさや喜びを味わい、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。

時	学習内容	評価規準
1	○バスケットボールの歴史や特徴 ○自他の安全の確保	知
6	○基本的な技術の名称と行い方 ・シュート(ゴール下、レイアップ) ・ドリブル ・ディフェンス ・ピボット ○1対1の簡易ゲーム ○個別課題解決練習 【工夫①】	知 技 思 態
6 (本時 2/6)	○パスの練習 ○複数での簡易ゲーム(2対1, 2対2) ○ボールを持たないときの動き方 ○リーグ戦 【工夫①・②】	知 技 思 態

6 本時の学習(9/13)

(1) 本時の目標

自分に適した課題の解決のポイントを見つけることができる。

(2) 展開

段階	教師の働きかけ	学習活動	・留意点
課題に向かう	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーミングアップをさせる。 ○前時までの学習を振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーミングアップを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドリブル ・シュート ・パス ○基本的な技術のポイントや複数でのゲームについて振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2対2の状況を振り返り、課題につなげる。
課題追究	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の課題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題】2対2のゲームでより確実にシュートを決める方法を考えよう！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習の記録を基に、ペアで課題の解決方法を考えさせる。 ☆ゲームの条件 <ul style="list-style-type: none"> ・制限時間内にシュートを打つ。 ・学習済みのバイオレーション(トラベリング, ダブルドリブル)を適用する。 ○3分間のゲームをさせる。(ボールがアウトしたりディフェンス側がボールを奪ったりしたら攻守交替とする) ○グループでゲームの振り返りをさせる。次のゲームへの見通しをもたせる。 ○観察の交流が新たな気付きに繋がっている班の交流内容を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談した内容を基にゲームをする。また、ゲームをしていないペアは、ゲームの様子を観察し、記録をとる。 ○ゲームをしてみた感想を交流する。また、観察した内容を相手に伝える。 ○反省や交流を生かして再度ゲームを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【工夫①】提示された課題に対する自己調整の場面 <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの記述から、自分に適した課題の解決方法を考えさせる。 【工夫②】課題の解決に繋がる情報収集 【工夫③】課題の解決を促す協働の場面 <ul style="list-style-type: none"> ・交流は口頭で行う。必要な場合はメモをさせる。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動を振り返らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・他のペアの活動を観察して気付いたことは何だろう。 ・課題の解決につながりそうなことは何だろう。 ○自分(達)の技能と場面の想定から、解決のポイントを探ることができることを確認する。 ○次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○次時の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの記述から、課題の解決に繋がりそうなものを紹介する。 ・空間を意識した記述があれば取りあげる。 【評価】 <ul style="list-style-type: none"> 自分に適した課題の解決のポイントを見つけている。 (思, 学習カード)

技術分野学習指導

日時 令和2年2月 日 ()
場所 技術室
生徒 第2学年C組 名
指導者 関 健太

1 題材名

「私たちが幸せにする家具」

〔A材料と加工の技術（2）〕

2 題材の目標

生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができることや、問題を見い出して課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができるようにする。

3 題材について

技術分野について第1・2学年の生徒を対象に行ったアンケートでは以下のような結果が得られた。

(問)技術分野の学習に対する生徒の考え。	1年	2年
1.学ぶ必要性を感じるものになっていますか。	72.5%	73.0%
2.授業以外でも試してみたい、使ってみたいと思うものになっていますか。	67.6%	62.0%
3.仲間と協力して学ぶことの大切さを感じるものになっていますか。	61.8%	72.0%
4.仲間との対話や交流を通して自分の考えが深まるものになっていますか。	65.7%	82.0%
5.学んだことがどんな場面で役に立つかをイメージできるものですか。	58.8%	56.0%
6.自分の成長が実感できる授業になっていますか。	68.6%	73.0%
7.「適切さ」を考えることの大切さを実感できますか。	77.5%	67.0%
8.「誠実さ」を考えることの大切さを実感できますか。	59.8%	47.0%

(%は四件法のうち「①とてもそう思う」と肯定的に答えた生徒の割合)

以上の結果から、今回特に注目したのは、「2.授業以外でも試してみたい、使ってみたいと思うものになっていますか。」と「5.学んだことがどんな場面で役に立つかをイメージできるものですか。」、そして「8.「誠実さ」を考えることの大切さを実感できますか。」の三項目である。

本校では、技術に込められた問題解決の工夫や技術の見方・考え方をより意図的に働かせながら技術を評価・選択したり、原理や法則、伝統的な手法、専門的な見地などと照合して学びの過程を振り返り、効果的にトライアンドエラーを繰り返したりして、

よりよく問題を解決に導くことができる生徒の育成を目指して研究を行ってきた。

しかしながら、アンケートの結果から、学んだことをどのような場面で活用すべきかについて、生徒が実感的に捉えられていないという課題があることが浮き彫りとなった。この事が、「学んだことを活用したい」という意欲や「どのように問題と向き合っていくべきか」という態度にも影響を与えたと考えた。

そこで本題材では、複数の思考ツールや思考方法の効果を比較・分析することにより、生徒が自らの問題解決のプロセスをより適切に評価・改善し、より良い生活や持続可能な社会の実現に向けて活用できるようにするための方策について研究を行う。

【工夫①】思考ツールを用いた評価活動の工夫

本実践では、レーダーチャートを用いた相互評価を中心とした授業、SWOT分析を用いて評価を行う授業、そして、思考カードを用いて評価活動を行う学級の3パターンを設定し、その効果を比較・分析する。

【工夫②】自己の問題解決の過程を効果的に振り返るための工夫

問題解決のプロセスをワークシート、製作図、作業計画、対話記録等を視覚的に表すことで、自己の思考を随時振り返ることができるようにする。

4 題材の評価規準

○既存の技術の理解を基に、解決方法が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作することができる。

【知識・技能】

○課題の解決結果や解決過程を様々な視点や立場から評価し改善・修正することができる。

【思考・判断・表現】

○材料と加工の技術を自分なりの新しい考え方や捉え方によって、工夫し創造しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 題材の指導計画

時	学習内容	評価規準
1～2	○問題発見、課題設定。 【工夫②】	思 態
3～4	○課題解決の方法、構想図、作業計画 【工夫②】	知 思 態
5～9	○製作と修正 【工夫②】	知 思 態
10～11 (本時10)	○自己の問題解決を振り返る。 【工夫①・②】	態 思

家庭分野学習指導案

日時 令和2年4月10日(木)
場所 3年A組教室
生徒 第3学年A組 33名
指導者 大橋 香奈子

1 題材名

「わたしのお弁当」 [B 食生活と自立 (3)イ]

2 題材の目標

中学生の段階における食品の栄養的特質を理解し、彩りや栄養バランスのよいお弁当を作らせ、今後の自分の食生活に対して関心を待たせる。

3 題材について

本校は、毎週水曜日がお弁当の日である。お弁当について家族が「作ってくれるもの」、「作ってもらって食べるもの」という受容的な考えが強く、内容については作り手任せにしている生徒が多い。そのため、一食分の食事としての栄養素や成長期に必要な食材などという視点から自分の好みの物をリクエストすることまでは、深くは考えてはいない。また、以下の表は2学年におけるお弁当に関する実践の前後の変容をまとめたものである。

「中学生にふさわしい」お弁当の印象の変容	
実践前	<ul style="list-style-type: none">・食べ応えがあり、おいしいもの。・午後からもがんばれるもので、楽しくなるもの。・栄養があるもの。・カロリーのあるもの。・見た目の良いもの。
実践後	<ul style="list-style-type: none">・彩りがそろとうと栄養バランスが整う。・なぜ彩りが大事なかわかった。・火加減で食感や味も変わる。・盛り付けの配置によって見た目の良し悪しが決まる。・食べる人が誰かによって調理法が決まる。・短時間で仕上げるために、効率や手順を考えなくてはいけない。・冷凍食品は添加物が多く悪者と思っていたが、なぜ人気があるのか分かった。・給食の栄養バランスにも目を向けられた。・毎週作ってくれる家の人に感謝！

以上のように実際にお弁当を作る前と後では、知識や技能面、多角的な視点からの深まりが見られたと考えられる。

本題材はお弁当作りを通して、中学生期の食生活に関心を持ち、食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けさせる。また、どのような工夫で栄養素をより効果的に取り入れることができるのか対話の中から調理上の特徴を考え、調理することができる力を身に付けさせたい。そのために、栄養バランスと彩りの整った中学生向けのお弁当を作ることができるような実践的な力

を身に付けさせたい。

そこで、本題材の指導では、次のような工夫をする。

【工夫①】探究を通じて問題解決をするための主体的な学びの工夫

中学生にふさわしいお弁当作りを通して、振り返り、より深く調べることで主体的な学びができると考える。グループで1つのポイントになる言葉から膨大なキーワードを出し合い、さらに絞り込んでいく。そして個人がより重要なキーワードを選んでいくことで主体的で深い学びになっていくと考える。

【工夫②】対話的な学びによって、より深く追究していく活動の工夫

対話的な学びによって生徒それぞれの、話の内容がまとまったり、広がったりして様々な情報を得ることができる。問題をよりよく解決する方法として対話を活動に取り入れることで、その時の最適解を答えとして出せると考える。

4 題材の評価規準

- 栄養バランスと彩りの整った中学生向けのお弁当を作っている。
- 中学生期に必要な栄養素を多く含んだ食材を用いた料理について、栄養素の働きや料理の作り方から理解している。 【知識・技能】
- 食材の栄養や調理上の特徴を生かして、お弁当に適した調理を工夫している。 【思考・判断・表現】
- 中学生期の食生活における課題に沿って、より良いお弁当作りについて粘り強く取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 題材の指導計画

時	学習内容	評価規準
1	○中学生のお弁当に必要な要素を理解する	態
2	○お弁当の献立を考える 【工夫①】	知 思
3	○献立を作る	知 思
4・5	○お弁当を作る(調理実習)	知
6 (本時)	○実習の振り返りからより良い工夫と方法を考える。 【工夫①】【工夫②】	態
7	○毎日作るお弁当についてまとめ 【工夫②】	態

6 本時の学習(6/7)

(1)本時の目標

お弁当を毎日つくる際のよりよい工夫と調理法を考えることができる。

(2)展開

段階	教師の働きかけ	学習活動	・留意点
課題把握	○前回の授業にまとめたレポートを基に、お弁当作りの条件について振り返らせる。	○中学生にふさわしいお弁当とは何かについて振り返る。 【予想される生徒の反応】 ○彩りがよい ○30分以内にできる ○栄養バランスが整っている ○腐りにくい・汁もれしにくい ○主食：主菜：副菜＝3：1：2 ○隙間がない	・レポート内容の中から特徴的な改善点を紹介する。 ・実習の経験を基に振り返らせる。
	○問いを提示する。 【問い】毎日作るための条件は何だろうか。	○問題を把握する。	
課題追究	○自分、もしくは家族が作ることを想像させる。	【予想される生徒の反応】 ○簡単に作れる。 ○作り置きの方が必要になる。 ○パターンを決めておく。	・実習を通して振り返りかえらせ、毎朝作ることが実現できるか考えさせる。
	○課題を提示する。 【課題】中学生にふさわしい安心安全なお弁当を、毎日作るためのより良い方法についてポイントを絞って考えよう。		・お弁当を作る側の立場から考える視点をなげかける。
課題追究	○より良い方法について、前回の実習プリントを基に話し合わせる。	○毎日作るためには、どんなより良い方法があるかグループで話し合う。 ○出てきた内容を傾向毎にまとめ、ポイントとして分類する。	・朝の忙しい時間の中でお弁当を作ることの難しさに気付かせたい。
	【ポイント】 ①時間 ②費用 ③栄養 ④冷凍食品 ○ポイントごとにどうすれば毎朝健康でおいしいお弁当を作り続けられるかという視点で探究させる。 ○お弁当作りのポイントに関するキーワードをどんどん出させ、(目標10枚:3分間)絞り込みをさせる。 ○キーワードに関しての情報を調査させる。	○ポイントに関するひらめきを、時間制限内に出してグループで共有する。 ○出したキーワードを、より重要だと思うもの4つに絞り込む。 ○1人1つのキーワードを担当し、資料やICTを活用して調査する。	・ICT機器や資料の活用そして、グループでの対話を通して課題の理解を深めていく。 【工夫①】探究を通じて問題解決をするための主体的な学びの工夫
整理	○調査キーワードについて調べた結果を、ポイントごとのグループで共有させる。 ○次回は、ポイントごとのグループのまとめを、他のグループの生徒と交流する。	○調査キーワードについての情報を持ち寄り、ポイントごとのグループ内で交流し、ポイントについてのグループの考えとしてまとめる。 ○全体での交流(ポイントごとのグループ代表が、より大切にしたいことを1つ発表)する。	【工夫②】対話的な学びによって、より追究していく活動の工夫 【評価】 ・お弁当を毎日作る際のよりよい工夫と調理法を考えることができる。 (思、ワークシート)